

第 60 回日本小児神経学会近畿地方会プログラム

【日 時】平成28年10月22日（土）

*近畿地方会 13時25分開始

*総 会 15時40分～15時50分

*特別講演 15時50分～16時50分

【会 場】大阪市立総合医療センター さくらホール

〒534-0021 大阪市都島区都島本通2-13-22

TEL：06-6929-1221

【会 長】松阪 康弘（大阪市立総合医療センター 小児脳神経外科）

【特別講演】

「小児難治性てんかんに対する機能温存を重視した
外科治療」

森野 道晴（東京都立神経病院

脳神経外科、てんかん総合治療センター）

次 回 予 告

第 61 回 日本小児神経学会近畿地方会

日 時：平成 29 年 3 月 18 日（土）

会 場：大阪市立大学 医学部学舎 4 F 大講義室

会 長：瀬戸 俊之（大阪市立大学大学院医学研究科
発達小児医学分野）

特別講演：「小児神経学領域における遺伝子解析の意義」

山本 俊至（東京女子医科大学統合医科学研究所）

参加者の皆様へ

【受付】3階ロビーにて12時55分より受付を開始いたします。

【参加費】会 員：1,000円
非 会 員：3,000円
非会員研修医：1,000円
非会員学生：無 料

【抄録集】1,000円（会員には事前発送いたします。）

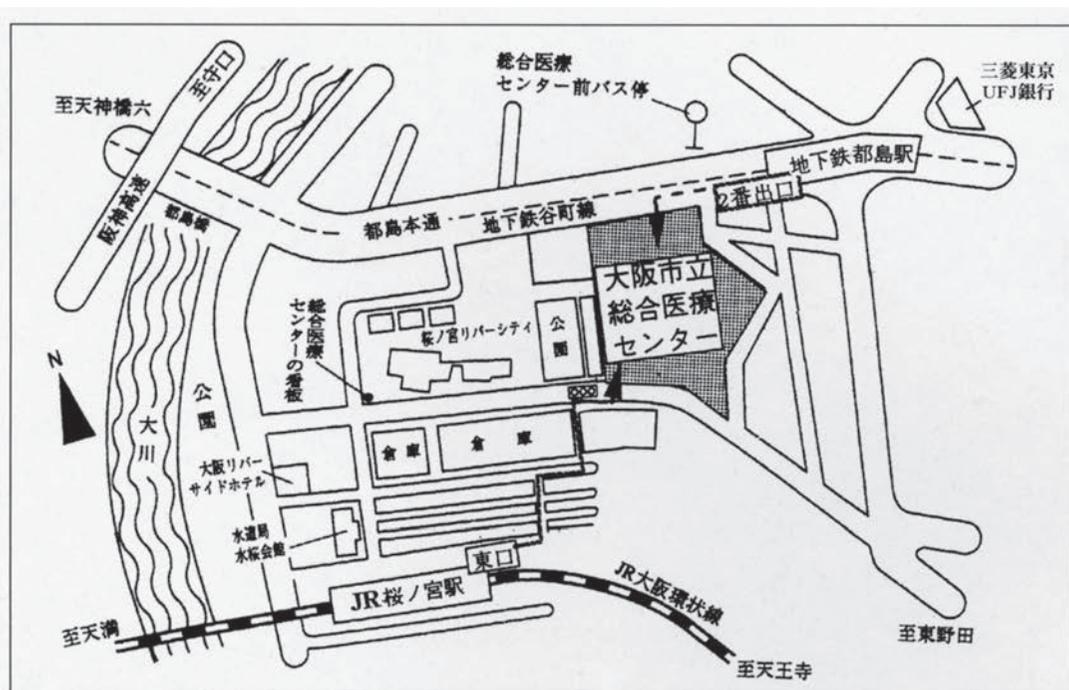
【単 位】日本小児神経学会専門医制度：発表筆頭者3単位、連名者1単位、
参加者5単位
日本小児科学会専門医制度：4単位

【交通案内】大阪市立総合医療センター さくらホール
〒534-0021 大阪市都島区都島本通2-13-22
TEL：06-6929-1221

■電車でお越しになる場合

- ◆ JR大阪環状線「桜ノ宮」駅下車（東口2 北東へ約7分）
地下鉄谷町線「都島」駅下車（2番出口 西へ約3分）

■駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮下さい。



発表者の皆様へ

【受付・発表時間について】

1. 発表時間の30分前までに発表データをPC受付にご提出ください。
2. 発表6分、質疑4分です。発表時間を厳守して下さい。
3. 発表開始後6分でベルが1回、質疑終了後ベルが2回鳴ります。

【発表使用機材について】

1. 会場に発表用のパソコンをご用意しております。
2. 会場をご利用いただけるパソコンは下記の通りです。
※ Windows 7/8、アプリケーションソフト：Windows MS PowerPoint 2010/2013
3. CD-R (CD-ROM)、USB メモリ持込みの注意点
 - 1) 動画がある場合には CD-R 等のメディアは使用できません。
必ずノートパソコンをお持込みください。
 - 2) CD-R および USB メモリでお持込みの場合は下記の様式で保存してご用意ください。
※ Windows…MS PowerPoint 2010/2013
 - 3) Macintosh の場合は、必ずノートパソコンをお持込みください。
 - 4) フォントは文字化けを防ぐため下記フォントに限定します。
日本語…MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
英語…Arial、Century、Century Gothic、Times New Roman
4. プレゼンテーションに他のデータ（静止画・グラフ等）をリンクさせている場合は必ず「図」として挿入してください。
※元のデータからリンクすることは、トラブルの原因となりますので避けてください。
※事前に必ず作成に使用されましたパソコン以外でのチェックを行ってください。

【ノートパソコン持込みの注意点】

1. OS は Windows、Macintosh が使用できます。
※使用するアプリケーションは PowerPoint のみとさせていただきます。
2. バックアップ用データとして CD-R (CD-ROM) または USB メモリをご持参ください。
またパソコンの AC アダプタは必ずご用意ください。
3. 会場でご用意する PC ケーブルコネクタの形状は MiniD-sub15 ピンです。
この形状に合ったパソコンをご用意ください。またこの形状に変換するコネクタを必要とする場合には必ずご自身でご持参ください。

4. スクリーンセーバー、省電力設定、パスワードは予め解除してください。

※発表データ受付時に確認させていただき、設定が解除されていない場合は設定を変更させていただく場合がありますので、ご了承ください。

※パスワードの設定が解除されていない場合は、パスワードロック時にお呼び出しをする場合がございます。

プログラム

1. 出血性ショック脳症症候群と臨床診断し病理解剖を行った、心身障害をもつ32歳男性の1例

○内藤拓人¹、坂本晴子^{1,4}、柴山隆弘²、林 雅晴³、赤澤 嶺¹、寺面浩武¹、田尻雄二郎¹、巽 亜子¹、中道恵理那¹、新居 敏^{1,4}、安西香織¹、杉田 亮¹、竹川麻衣¹、野村安隆¹、肥田晋矢¹、藤野寿典¹、葭井操雄¹、嶋田俊秀²、住本真一¹、金岡裕夫⁴

1. 大阪赤十字病院 小児科
2. 大阪赤十字病院 病理部
3. 東京都医学総合研究所
4. 大阪赤十字病院附属 大手前整肢学園

2. 抗NMDA受容体脳炎に対するリツキシマブの使用経験

○福岡正隆¹、川脇 壽¹、金 聖泰¹、辻ひとみ¹、井上岳司¹、温井めぐみ¹、九鬼一郎¹、岡崎 伸¹、石川順一²、大塚康義³、宇城敦司³、林下浩士²、嶋岡英輝³、川村直樹⁴、田中恵子⁵

1. 大阪市立総合医療センター 小児神経内科
2. 大阪市立総合医療センター 救急救命センター
3. 大阪市立総合医療センター 集中治療部
4. 大阪市立総合医療センター 婦人科
5. 新潟大学脳研究所 細胞神経生物学分野

3. ワクチン接種後に急激な視力低下を認めた自己免疫性網膜症の幼児例

○中井理恵¹、木村貞美¹、平野藍子¹、林 良子¹、池田 妙¹、最上友紀子¹、柳原恵子¹、鈴木保宏¹、藤野貴啓²、初川嘉一²、國吉一樹³

1. 大阪府立母子総合医療センター 神経科
2. 大阪府立母子総合医療センター 眼科
3. 近畿大学病院 眼科

4. 診断に苦慮した硬膜下膿瘍の1例

○國廣誉世¹、松阪康弘¹、西嶋修悟¹、坂本博昭¹、福岡正隆²、丸山和歌子²、金 聖泰²、温井めぐみ²、井上岳司²、九鬼一郎²、岡崎 伸²、川脇 壽²

1. 大阪市立総合医療センター 小児脳神経外科
2. 大阪市立総合医療センター 小児神経内科

5. てんかん性スパズムに対して脳梁離断後に側頭後頭頭頂葉離断を施行した一例

○宇田武弘^{1, 2}、松阪康弘¹、國廣誉世¹、西嶋修吾¹、川脇 壽³、岡崎 伸³、九鬼一郎³、井上岳司³、温井めぐみ³、福岡正隆³、金 聖泰³、馬場良子²、坂本博昭^{1, 2}、大畑建治²

1. 大阪市立総合医療センター 小児脳神経外科
2. 大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経外科
3. 大阪市立総合医療センター 小児神経内科

6. 当施設におけるもやもや病の治療

○寺田栄作、竹本 理、山田淳二、千葉泰良
大阪府立母子保健総合医療センター 脳神経外科

7. 乳児脊髄係留解除術における BCR の有効性と工夫

○小谷有希子^{1, 2}、朴 永銖¹、三好教生¹、金 泰均¹、竹島靖浩¹、横田 浩¹、本山 靖¹、中瀬裕之¹

1. 奈良県立医科大学 脳神経外科
2. 市立奈良病院 脳神経外科

8. 血行再建術前後の病態評価に ivy sign と ASL 灌流画像が有用であった小児もやもや病の1例

○宇津木玲奈¹、阪本大輔¹、原田敦子¹、山崎麻美¹、前野和重²、宇都宮英綱³

1. 愛仁会高槻病院 小児脳神経外科
2. 愛仁会高槻病院 脳神経外科
3. 愛仁会高槻病院 小児神経センター

9. 重症心身障がい児者 医療コーディネート事業について

○和田 浩、船戸正久、飯島禎貴
大阪発達総合療育センター 小児科

10. 熱性けいれん重積に対するミダゾラム静注と持続静注療法の比較検討

○佐々木香織¹、親里嘉展¹、西山敦史¹、沖田 空¹、中尻智史¹、金川温子¹、永瀬裕朗²

1. 加古川中央市民病院
2. 神戸大学医学部附属病院 親と子の心療部

11. 重度脳性麻痺者へのシート状ストレッチセンサを用いた入力スイッチの利用例

○山本暁生¹、木原健二^{1, 2}、八木麻理子^{1, 2}、松本葉子²、常石秀市^{1, 3}、大高秀夫⁴、米澤昌弥⁴、高田 哲¹

1. 神戸大学大学院保健学研究科
2. にこにこハウス医療福祉センター
3. 医療福祉センターきずな
4. バンドー化学株式会社

12. 当施設における痙縮の治療について

Treatment for the dystonic children

○山田淳二、竹本 理、千葉泰良、寺田栄作
大阪府立母子保健総合医療センター 脳神経外科

— 15:30 ~ 15:40 休憩—

— 15:40 ~ 15:50 総会—

特別講演 司会 松阪康弘 (大阪市立総合医療センター 小児脳神経外科)

15:50-16:50

「小児難治性てんかんに対する機能温存を重視した外科治療」

東京都立神経病院 脳神経外科、てんかん総合治療センター 森野道晴 先生

筋・神経関連 座長 野崎章仁 (滋賀県立小児保健医療センター 小児科)

16:50-17:30

13. 多彩な頭部画像所見を認め、COL4A1 関連疾患の診断に至った

1 例

○佐々木彩恵子¹、野崎章仁¹、熊田知浩¹、日衛嶋郁子¹、林 安里¹、井上賢治¹、森未央子¹、柴田 実¹、楠 隆¹、藤井達哉¹、才津浩智²、宮武聡子³、松本直通³

1. 滋賀県立小児保健医療センター 小児科
2. 浜松医科大学 医化学
3. 横浜市立大学大学院医学研究科 遺伝学

14. 3歳時より筋力低下を呈したシャルコー・マリー・トゥース病2型の一例

○永井正志、粟野宏之、松本真明、坊 亮輔、富岡和美、前山花織、西山将広、永瀬裕朗、飯島一誠

神戸大学大学院医学研究科 小児科学

15. 筋強直性ジストロフィーに伴う症候性の多動症にアトモキセチンが有効であった1女児例

○荒木 敦^{1, 2}、廣瀬陽子^{1, 2}、金子一成²

1. 大阪府済生会野江病院 小児科
2. 関西医科大学 小児科学講座

16. エクソーム解析でCYP2U1 遺伝子異常を認めた遺伝性痙性対麻痺の1例

○渡辺陽和¹、廣恒実加¹、山下朋代¹、岩谷祥子^{1, 2}、富永康仁^{1, 2}、下野九理子^{1, 2}、荒井 洋³、宮武聡子⁴、輿水江里子⁴、松本直通⁴、青天目信¹、大藪恵一¹

1. 大阪大学大学院医学系研究科 小児科
2. 大阪大学大学院 連合小児発達学研究所
3. 森之宮病院 小児神経科
4. 横浜市立大学大学院医学研究科 遺伝学